

弘前城石垣修理

第10回～石垣の解体調査～



▲石垣解体始め式

4月9日に行われた「石垣解体始め式」から、弘前城跡本丸東側石垣の解体工事がスタートしました。工事は平成29・30年度の2カ年で実施し、解体の1年目となる今年度は、4月～12月まで現場での作業を進める予定です。

石垣解体工事は、ただ石材を取り外すだけの工事ではありません。石垣の構築年代や構造などを明らかにするため、発掘調査と同時進行で進めます。平成25年度以降、本丸で実施していた石垣の発掘調査は、石垣上部の様相を事前に把握するためのものでした。人力での掘削により、地表からの深さ約2.5m（上から6石目）までの石垣の背面構造を確認しています。

今年度からは、石垣を解体しながらさらに深い部

分（上から20石目前後）の石垣を調査していきます。石垣を一段外すごとに石材の下や背面を調査し、徐々に掘り下げていきます。

先人たちは石垣を積み上げる際、崩れにくくするための工夫をしています。石材の背面に詰められる礫層（裏込（うらごめ））には、石材を安定させたり、水を逃がしたりする働きがあるとされます。また、石垣の背面には人工的な盛土が入るため、それらも締め固められているはずですが、石材と石材の接点には、お互いをうまく噛み合わせるための小石（飼石（かいし））が置かれます。これらの情報は全て、孕（はら）んだ石垣を健全な状態に戻すためのヒントになります。

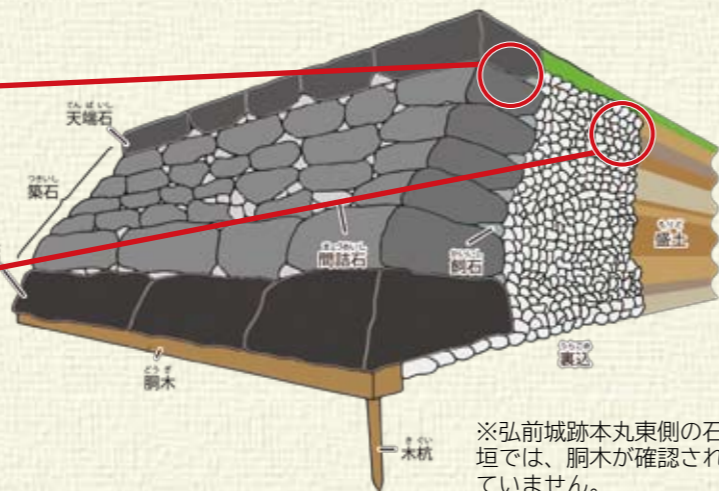
また、石垣解体工事と並行して、解体した個別の石材の調査も進めていきます。石垣として積み上げられた状態では、石材の1面しか観察することができません。石垣の解体は、石材の隠れて見えない部分を観察する絶好の機会です。修理範囲にある約3,000個の解体石材をひとつひとつ観察し、記録に残していきます。

これらの地道な調査により、私たちは頑丈な石垣を築こうとした先人の知恵を知ることができ、それは私たちが弘前城跡を遠い未来へ引き継ぐために不可欠な「伝統技術」です。その成果を平成31年度以降に実施する石垣の積み直しに生かしていけるよう、慎重に作業を進めていきます。

▶石材「イー4」を取り外した後…下に置かれた小さな石（飼石）には、石材を安定させる役割があります



◀石垣の背面構造…石材の背面には「裏込」と呼ばれる礫層と人工的な盛土が詰められています。



※弘前城跡本丸東側の石垣では、桐木が確認されていません。

※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記 URL をご覧ください。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/index.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎33・8739）



フォトコレ in ひろさき

市内各地で行われたイベントやまちの話題をお届けします。

消防定期観閲式



5月5日、消防団員が日ごろの訓練の成果を披露する「定期観閲式」が行われ、市役所周辺では機械点検や放水訓練、車両分列行進が行われました。弘前公園レクリエーション広場では、規律ある従歩部隊分列行進、伝統と歴史のあるまとい振りやはしご乗り演技などを披露し、広場を訪れた市民や観光客の注目を集めました。

弘前りんご花まつり



5月6日から14日にかけて、りんご公園（清水富田字寺沢）で、弘前りんご花まつりが開催されました。期間中は、地元出身歌手によるステージやりんご棒パン作りなどの体験イベントが行われたほか、5月6日夜にはシールドナイトなどのりんごのお酒の飲み比べができるシールドナイトも行われ、りんごの花が咲き誇る園内で、思い思いにまつりを楽しんでいました。

宇津木ヘッドコーチはるか夢球場を視察



4月26日、ソフトボール女子トップ日本代表の宇津木麗華ヘッドコーチが東アジアカップ女子ソフトボール大会のPRのため、はるか夢球場（豊田2丁目）を視察。「大会出場は東京オリンピックの金メダルへの第一歩」と意気込みを語りました。

津軽路ロマン 国際ソーデーマーチ



5月13日と14日、「第19回津軽路ロマン国際ソーデーマーチ」が開催され、県内外から2日間延べ1,688人が参加しました。参加者は岩木山のふもとや神社仏閣のある街並みを堪能しながらウォーキングを楽しみました。